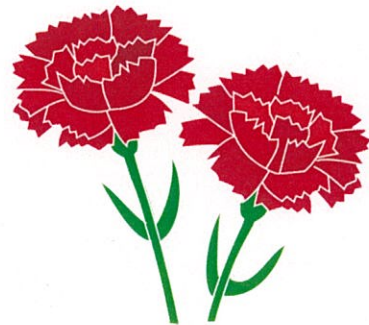


# 水之江区 まちづくり計画



平成 26 年 6 月

# 水之江区地域づくり計画

## 1. 計画構成

本計画は、水之江区民へのアンケート調査をもとに地域の諸問題解決と地区の将来を考える目的で企画したものであり、つぎのように構成します。

第1章 趣旨と地域概要（計画作成のための趣旨と地域の概要）

第2章 基本構想（地域作りを行う上での基本理念）

第3章 基本計画（実施のための基本計画）

参考資料 区民アンケート（平成26年1月実施）

## 2. 計画期間

平成26年度を初年度とし、概ね10年間（平成35年度まで）の地域づくりの内容を掲載し、必要に応じて5年を経過した後に、見直しを検討することとします。

## 第1章 計画の趣旨と地域の概要

### 1. 趣旨

平成16年4月1日、丹後六町が合併し京丹後市が誕生しました。

地方分権の流れの中での合併によって、地方自治体は今まで以上に運営の合理化や、重要な意思決定、責任が求められています。

同時に各地域でも多様化する区民、個々の要求に出来得る限り呼応すべく、より住みよい地域を自らがつくるために、行政の指導、援助を受けながら、区民自ら考え行動を起こすこと、そして自らも負担を負い、自分たちの地域は自分たちで守り、つくり育てるという意識を持つことが求められます。

この計画では、自治意識や区民相互のつながりが薄れる中、地域の意識向上を目指し、将来、水之江区がどのように変化し、どのような区の在り方を目指し、どのように進めていくのかを、様々な視点から具体的に指し示すべく作成するものであります。

## 2. 地区概要

### (1) 水之江区人口の推移

	平成元年	平成5年	平成10年	平成20年	平成25年
地区人口	648	611	590	535	492
男	315	287	284	252	231
女	333	324	306	283	261
世帯数	205	203	200	204	201

☆進行する高齢化（水之江区人口に占める70歳以上の割合）

平成元年 13, 2% → 平成25年 25, 2%〔4人に1人が70歳以上〕

☆少子化も進んでいる（網野保育所入所者数）

平成15年 93人 → 平成25年 65人

## (2) 歴史、暮らし、産業、教育、文化

### ① 水之江区の歴史

水之江コミュニティセンターには、福田川の流れ込む一帯を描いた相当に古い絵地図がかけられています。そこには浅茂川も、網野も無く一帯を『水之江』と印してあります。

今から1600年ほど前の丹後は大和に匹敵するほどの強い力をもった豪族が出現し、大陸との交流もさかんであったことは多くの遺跡や出土品によって証明されています。


水之江はその名の通り、大きな入り江の天然の良港であったと考えられます。日本海側最大の銚子山古墳とその麓にある網野神社、その地域名として残る水之江。現在の水之江区は、網野、浅茂川地区に挟まれた場所に位置し、家が建て込み、昔の面影は全く見当たりませんが、その名だけをとどめています。

水之江が、網野地域の一部になって一区として、今の形になるのはごくごく最近のことです。いわば水之江は、網野地域の前身と言えるのかも知れません。

(参考資料：網野町史上巻、水之江会館の絵図)

### ② 水之江区の行事、施設

地区行事（平成25年度の主なもの）

月	地域行事	備考
1月	定例三役評議委員会（新年度事業案の作成） 役員会（事業内容、予算案の作成） 区民総会（新年度役員の承認、事業、予算の決定）	 餅つき大会
2月	公民館行事：餅つき大会 定例三役評議委員会（今年の課題）	
3月	定例三役評議委員会 区役員の親睦会	
4月	定例三役評議委員会 地区溝掃除	
5月	定例三役評議委員会	泥上げは4月か5月の第三日曜日
6月	定例三役評議委員会 寿フェスティバル（敬老会） 区民の日帰り研修 愛護会と公民館の日帰り研修	
7月	定例三役評議委員会 愛宕神社 マンドリ復活に協力	
8月	定例三役評議委員会 夕涼みと子安地藏祭	

	地蔵盆（愛護会） 防災訓練	防災訓練は市と連携
9月	定例三役評議委員会 ウルトラマラソン応援 北小校区区民運動会 / 区民グランドゴルフ大会 区民の集い（行事の慰労を兼ね）	「域学連携」事業で学生受け入れ 北小校区運動会は隔年開催
10月	定例三役評議委員会 網野神社例祭、子供神輿参加	
11月	定例三役評議委員会	
12月	定例三役評議委員会 街灯の点検 公民館フラワーアレンジメント 役員会（年度末総会議案） 年度末総会（事業報告、決算、来年度への要望）	
通年	水之江サロン 毎月第一火曜日 『水之江たより』の発行 毎月10または25日	

水之江コミュニティセンター（水之江会館）は、集会所、区事務所、公民館、愛護会の事務所が置かれ区の活動拠点となっています。寿フェスティバル(敬老会)、餅つき大会、水之江サロンなど事業の他、コーラス、書道などのサークルも定期的に使用しています。3階建ての建物の中に上記以外8部屋と炊事場があり、冷暖房、寝具も完備し宿泊可能な施設となっています。そして管理人を置き、施設の管理を行っています。



市の「域学連携」事業では、網野地区における学生たちの活動拠点として事業に貢献しています。

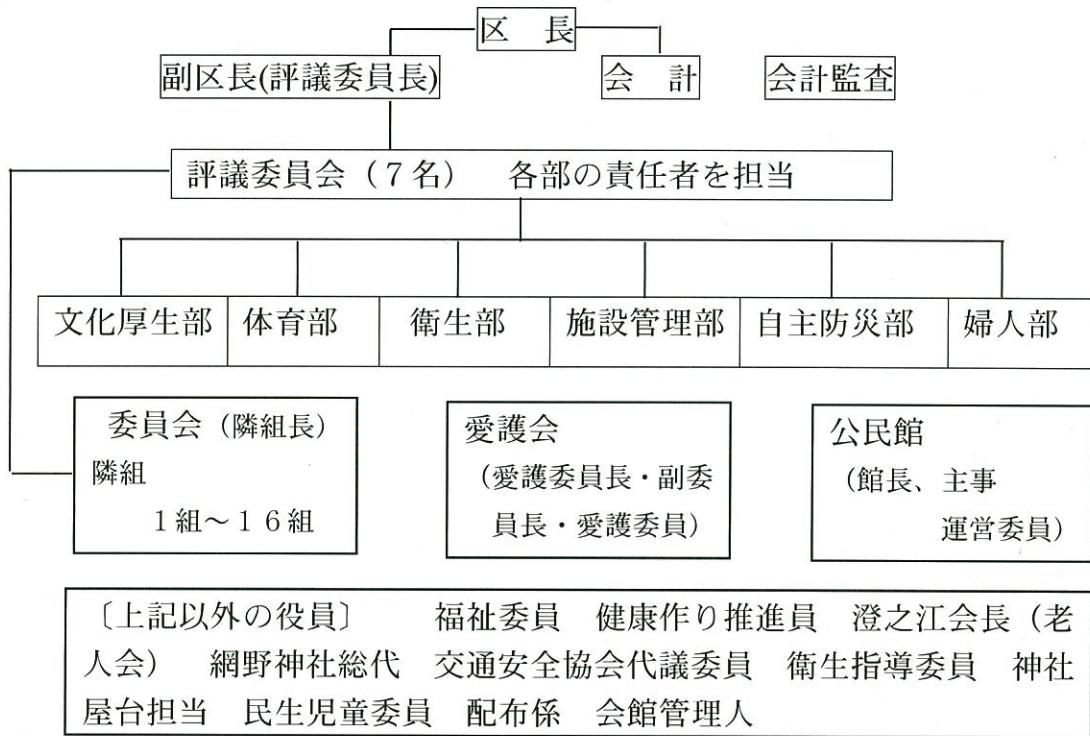
水之江コミュニティ広場（水之江公園）では、毎年8月に区民総出の夕涼み会や、地蔵盆を催します。区民有志による模擬店、楽しいイベント、ささやかな花火など、夏の一夜を区民で楽しみます。また、夏休みには愛護会によって毎朝、ラジオ体操が行われます。

防災活動では東日本大震災を機に自主防災組織を立ち上げ、地域の防災に取り組み、避難訓練により経路を確認するとともに、防災備品を年ごとに整えています。今後は津波だけでなく、福田川の氾濫による洪水にも備える必要があると思います。

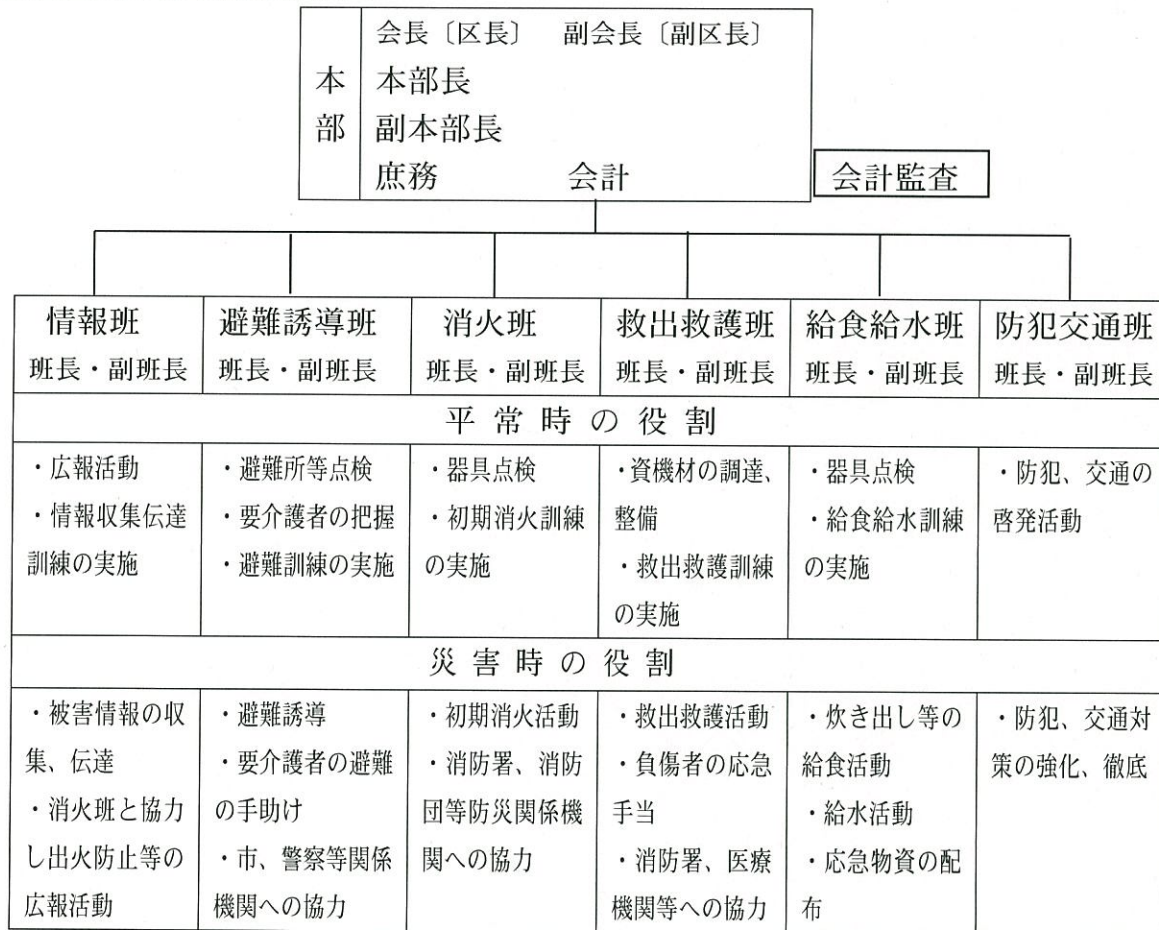
京丹後市消防団網野第2分団に所属し、防災施設として防火水槽3（40t×1、20t×2）、消火栓23を備えています。

ウルトラマラソン応援活動 近年、「歴史街道100kmウルトラマラソン」が毎年開催されています。水之江区はゴール前約1km地点にあたり、当日は、ゴールを目にしたランナーを多くの区民が応援をします。くたくたに疲れたランナーを迎える暖かい一声に、思わず涙を流す人もいます。

③地区組織



④水之江区自主防災組織図



## ⑤産業、教育、文化

- ・織物産業：江戸時代中期、森田治郎兵衛が丹後に技術を伝え、丹後ちりめんが網野でも盛んに生産され、昭和40年頃にはかつてない好景気に沸き、ガチャ万時代と言われ、夜の10時頃まで機音がしていました。しかしながら、昭和49年の石油危機や若者の着物離れなどにより、織物業も後退の一途をたどり、現在では網野神社境内の蚕織神社と、昭和26年から始まったちりめん祭りがその面影を残すのみです。
- ・教育： 網野第1保育所  
幼稚園：網野幼稚園管内（住吉区）  
小学校：網野北小学校管内（北大路区）  
中学校：網野中学校管内（北大路区）  
高等学校：府立網野高等学校（北大路区）
- ・文化財  
神輿：昭和57年より愛護会によって今も継承されている子供神輿。  
神楽：今は神楽保存会によって大切に継承されている。  
子安地蔵：昭和35年、離村した尾坂地区（旧島津村）から六地藏尊とともに寄贈され、水之江公園の地藏堂に大切に祀られています。子宝に恵まれ、子どもが丈夫に育つというおかげがあると伝えられていることから、お参りする人も少なくなく、献花が絶えません。少子化の進む中、子安地蔵尊を中心とした取り組みにより区の活性化につなげることが期待されます。



子安地蔵尊

## 第2章・地域づくり基本構想

### 〔地域づくりのテーマ〕

- ・区民が楽しく生活し、今後も住み続けたいと思える地域づくりをめざす。
- ・区民による自治会活動を基本に、今後の地域づくりについて、その方向を考える。

当区的环境は、海にも程近く、市民局、病院、教育施設、スーパーなども隣接地区にあります。下水工事も開始され、居住環境は良い方であり、区民アンケートによりますと区民の大半がこのまま住み続けたいと考えています。

より良い地域環境をつくるため、行政の施策を待っている時代は終わりました。もちろん地域だけの力で限界のある事業については、声を集め、市当局へ要求することは必要です。基本的には自分たちの手で地域を守り、つくる意識の向上が求められる時代となっているのです。

### 1. 子育てに地域で取り組む環境づくり

少子高齢化が進行するもとの、若い世代に安心し、希望をもって生活のできる環境作りに取り組むことは何より大切です。他所から移り住んできた若い夫婦は、不安が一杯です。収

入のこと、子育てのこと、地域との交流のこと…。多くの悩みを持ち、そしてそれを話せる相談相手を見つけられずにいることが多いものです。この不安を少しでも取り除くことによって、気持ちはグーンと楽になり、安心して暮らす事ができます。

子育てに関して百戦錬磨の良き先輩である、お年寄りを起用できないものか。古くからあった良き風習～すべての子を地域の子としてとらえ、お年寄りが子育てに関わることが出来ないものか。同じいたずらをして今は学校や警察まかせにする風潮もあり、いろいろなことを今一度見直して、地域と一緒に子育てが出来環境を作りたいものです。

今後も、新しく家やアパートが建ち、若い人が住み始めた時、親しみやすく、区の事業に参加しやすい環境を整えていることが、何より大切です。

コミュニティ広場でのラジオ体操



## 2. 防災防犯意識を高める地域づくり

阪神淡路大震災をきっかけに、日本はマグマが活動期に入り、近い将来、巨大地震が起こる可能性が高まっているとされています。これは、太平洋側に限ったことではなく網野にも活断層が走っていることは、先刻ご承知の事であります。

水之江区は、海拔2～5m程度の位置であり、もし10mの津波が来たとしたら、全滅の危機に瀕することになります。しかし地震で怖いのはこれだけではありません。それは通電による火事です。倒壊した建物の電線が切れ、停電になったあと再び電気が復旧したときショートによって火災が発生します。したがって、逃げるときには必ずブレーカを切らねばならないが、そんな余裕は多くの人には持ち合わせることはないだろう。電力会社の送電カットなどの対策も考えられますが、地域でいざという時に各家庭で冷静に対応できる体制づくりが望まれます。

食糧はすぐに調達できるのか。水、トイレ、寝る場所は確保できるのか、救助はどうか、人数の確認は、等々、問題が予想されます。区として自主防災会の拡充をはかりながら、一方で人に頼るのではなく、個々で出来る対策を積極的に進める努力が必要であることを普段から呼びかける必要があります。広範囲な大規模災害の中では、行政の手はとても届くものではない事を皆に訴え、個々の意識を変える努力が最も重要ではないでしょうか。独居老人や身体の不自由な人を把握し、防災訓練で避難行動を援助することも大切です。

災害は、天災だけではありません。頻繁に起きるのは人災。詐欺、盗難など犯罪にまきこまれないようにすることが大切です。泥棒は、下見したときに、隠れ場所と、近所付き合いの様子を見るといいます。防犯灯をつけ、各家々にも外灯をつけ、明るくしておけばかなり防犯事ができるようです。詐欺も、自分だけでは判断せず、相談する相手がいることで助かるケースがあります。トラブルも内容によっては、互いに顔を合わせて話すことで、誤解も

解ける。大切なことは、地区の人は信用できるという信頼感である。だから共に仕事もし、生活も出来、こうしたつながりが自治の基本であると思います。

### 3. 「体の健康・心の健康」が維持できる地域づくり

- ・ 子供は未来
- ・ 大人は力
- ・ 老人はよきアドバイザー

時代の変化とともに、地域の結びつきが壊れ、共同体としての良さが失われつつあります。皆が互いを敬愛し、出来ることを自らやれば、自然と住みよい地域が生まれます。地域に埋もれた年寄りの知恵と技能を発掘し、若者へ還元できる場をつくります。高齢者は『生活の輪』を作ることが何より大切で、地域はその手伝いをする。与えるのが福祉ではない。福祉とは支えること、居場所を探すことと考えます。



水之江区寿フェスティバル（敬老会）

### 4. 生涯学習

グランドゴルフ、料理教室、歩こう会など区民の要望に応え、区、公民館、老人会が、連携し、区民参加型の学習機会をつくり、健康で文化的な区民の生活向上を図ります。

### 5. 青少年の育成

子ども達が生き生きと生活できる生活環境をつくることが求められています。教育機関とも連携し、積極的に学び、健全な文化にふれる機会を設定することや明るい挨拶が交わされる地域づくりをめざします。

### 6. 産業の振興

当地区は、かつてちりめん産業を中心に、産業振興の発展に大きく寄与し、にぎわいを見せていました。企業の誘致を積極的に行って雇用の促進を図るような事は、区の事業では無理ですので、もしこの地で事業を行う業者が現れた時には、できる協力を積極的に行い、そして地域の人を雇用してもらえよう促します。地域経済衰退を背景に増えつつある空き家、空き地の活用ができるよう知恵を出し合うことが求められています。

## 3章 基本計画

### 1) 環境の整備

- ① 水之江コミュニティセンター、水之江コミュニティ広場の整備をすすめ、区民が集い、つながる場としての魅力を高める。
- ② 道路、街灯、ゴミ収集所の整備、除雪対策をすすめ区民の安心・安全を図る。
- ③ 財政のムダをはぶくとともに、隣組の再編、区費の見直しをすすめる。



2) 防災・防犯の地域づくり

- ① 防災訓練を実施する。
- ② 防災備品の充実と避難路の整備をすすめる。
- ③ 防犯・防災意識を高める。

3) 健康と福祉

- ① だれもが参加しやすい軽い運動による健康管理、挨拶・動物・緑が大切にされる情動的な健康管理などを区として取り組む。
- ② 老人の知恵が生きる「生活・子育て交流の場」をつくる。

4) 生涯学習

- ① 区、公民館、老人会が連携し、住民参加型の取組を考える。
- ② 日帰り研修、サロンの拡充、一芸に秀でた名人発掘、その名人に学ぶ趣味の輪づくり、地域の歴史検定など交流と学習の場を広げる。

5) 青少年の育成

- ① 地域の愛護会活動を支援する。
- ② 子ども達を主人公にした取り組みを考えるため、愛護会を中心に組織を編成する。
- ③ 大人、高校生講師による子ども学習会を行う。

6) 産業の振興

- ① 空き工場、空き地、空き家の活用を考える。

以上